

令和4年度 大阪府立伯太高等学校運営協議会 第1回議事録

令和4年6月11日（土）10:00～12:00

記録：中村

協議会委員参加者

鎌田 聖子 (令和4年度PTA会長)  
田中 恒子 (地域教育相談員)  
山野 正広 (和泉市総務部 人権・男女参画室長)  
原田 尚史 (和泉市立和泉中学校長)  
西田 芳正 (大阪公立大学教授)

学校教職員参加者

大崎 弘司 (校長)  
北出 眞理 (教頭)  
津田 等 (事務長)  
中村 友香 (首席)

その他参加者

横山 創一 (生徒指導部長)

- (1) 校長挨拶
- (2) 委員・校内事務局紹介 会長・副会長 選出 (会長：鎌田 副会長：山野)
- (3) 生徒の進路状況 (校長より)
- (4) 令和4年度使用教科書について
- (5) 校内授業見学  
1年：言語文化 2年：科学と人間生活 3年：英語表現
- (6) 生徒状況報告 生徒指導部 (横山教諭)
- (7) 令和4年度学校経営計画
- (8) 意見交換
- (9) 校長謝辞

[主な報告、質問、意見等] ◇は報告内容、○は質問、→は答え、●は意見や感想

### 進路指導関係

- ◇令和3年度の進路選択の特徴としては、専門学校への進学希望者が未だ増加傾向にあること、看護医療系の希望者も増加していること、就職希望者が少し減少した。
- ◇例年に比べて様々な入試の方式での受験があった。(大学入学共通テスト受験1名)
- ◇進学希望者による予約奨学金の書類提出による申し込みは、例年より少し減少した。
- ◇外部連携として、様々な企業や学校、卒業生などに講演を依頼した。(2学期に多く実施予定)

### 生徒指導関係

- ◇本年度の目標や取り組んでいきたいこととして、『伯太高校生』として見られている自覚が一人ひとりに芽生えるよう指導していく。(身だしなみやマナー等)
- ◇欠席・遅刻数を減少させていくために、学校に来ること・時間を守ることの強い意識付けをしていくと共に、欠席・遅刻が多い生徒に対しては家庭と協力して指導にあたっていく。
- 今年の1年生は欠席・遅刻が多いですか。
  - 遅刻は少なくなっていますが、延べの欠席数は多くなっています。
- 中学校の時点でどのような指導をしてやると、高校生活に繋がっていくでしょうか
  - 自分たちの考え・思いのみで行動しているケースが多いように見られるので、中学校の時から第三者からみてどのように映るのか、他者はどのように思う可能性があるのかをしっかりと伝え、なぜその行動がダメなのか理解させることが大切だと思います。
- 学校からさほど離れていない公園に寄り集まる姿が多く見られます。中には特別指導対象となる行為を行っていることもあるようです。学校の近くでそういった行為を行うのは何かのサインなのでしょうか。
  - 何らかのサインである可能性が大いにあるので、しっかりと普段から背景も注視した指導を心がけていきます。

### その他

- ◇今年度の教科書は、各出版社が難易度を3段階で作成されている中で、本校生徒に適当だろうと思われるものを各教科で選定しております。
- 年々、授業が落ち着いて受けることができるようになってきている。
- ◇クロームブックを1人1台持たせ、授業内で活用することも増えてきたが、基本的には2・3年の授業で活用。(1年では技能的な面で差があり、情報の授業で底上げを図り、2学期から活用予定)
  - どれくらい技能に差がみられるのか。
    - ほぼ作業できない生徒もいれば、すぐに検定をうけても合格しそうな生徒もいる。今後は現在小・中学校でも1台所持し、宿題などもそちらでこなしている分状況は変わってくると思われる。
- 学校生活についてのアンケートは行っているか。またどのように活用されているのか。
  - 4月に1年・1月に3年で行っているが、回答を外部機関に提出を依頼されるため回答が手元に残らず、結果は届くものの大阪府内の高等学校全体での数値でしか出てこないため、本校のみの結

果を出し活用していけるような方法を検討していきます。

○進路保障の観点から、単位制・通信制への進学や転学が増加の傾向にあるように思うが、どのように感じておられますか

→『全日制』の学校では、普段の生活リズムの確立や人間関係を構築していく力、社会性を養うという点からも、将来のことを考えると不安が残る。大阪府南部にも通信制・単位制の学校が近年次々とできていることから、今の傾向から脱することはまだ難しそうではあるので、『全日制』の良さ・大切さを伝え、生徒と向き合っていきたい。

#### 校長より

◇例年に比べて学習に前向きな様子が見て取れる。今年度の1年生から評価の方法が観点別評価に変更になり、試行錯誤しながらも生徒が主体的に参加し学べる授業づくりを行っています。

◇生徒への進路指導の一環として外部と連携していくと同時に、教員へのキャリア教育のための意識向上を図っていく。

◇年々生徒が落ち着いてきているがそこに甘んじるのではなく、生徒の満足度も上がるようより良い学校づくりを目ざしていく。